

高等教育改善のキーワード

質保証

教育の質保証に関する議論の変遷

↓

2004年 (法人化)

↓

事前規制という手法

- ✓最低基準を定める(設置基準)
- ✓最低基準を担保する(設置認可審査)

↓

事前規制に加えて、事後チェックという手法

- ✓自己点検・自己評価
- ✓機関別認証評価
- ✓認証評価
 - 機関別認証評価
 - 分野別認証評価

➡ 事後チェックに耐えるシステムの構築が求められる
 ・説明責任が求められる
 (つまり、外から見える手法の導入が必要！)

教育の質保証を担保する3つの手法

コア・カリキュラム

➔

教育改善にあつて
まずは足下からという手法
しかし意外と近道かも、

共通試験

(ラーニングアウトカムを検証する全国共通の試験)

共通テキスト

(“シラバス”はすでに普及、次の目標)

資格と直結する分野(医・歯・薬・看護・法律)が先行している

獣医学モデル・コア・カリキュラム

「学生が勉強するようになる」システム

1. コア・カリキュラムとは
2. 「獣医学」分野が目指すもの
3. 想定する「科目」とは
4. 作業の進め方
5. 工程表

1. モデル・コア・カリキュラム(共通到達目標)とは

- 教育内容のガイドライン、大学卒業時までに身に付ける**必要不可欠な知識を精選し、共通の到達目標を明示したもの。**
- 大学における専門職業人育成の標準化を図るため、必要不可欠な教育内容を精選し、その到達目標を明示することによって分野ごとの教育内容とレベルを確保することを目的とする。
- すでに、国家資格のある**医、歯、薬学**分野ですでに作成され、**法学**でも作業が始まっている。
- 医学、歯学、薬学では、臨床実習開始前にコア・カリキュラムの到達目標に準拠した全国共通の標準試験システム(**共用試験**)を構築している。

基礎知識については**CBT**(computer based testing)
 技能態度については客観的臨床技能試験**OSCE**(objective structured clinical examination)

(臨床実習を控えた4年次に行う**仮免試験**)

2. 獣医学教育モデル・コア・カリキュラム事業 — 立ち上げの経緯

- 平成20年度に文部科学省に「獣医学教育の改善・充実に関する調査研究**協力者会議**」が設置されたのを契機に、獣医学教育改善の議論が再び高まっている。
- これらの現状を背景に、我が国における理想的な獣医学教育像を描くためには：
 - ① **学生の具体的な到達目標を明示する**
 - ② **目標を達成するために必要なカリキュラムの内容(シラバス)を明らかにする**
 - ③ **教育手法を明示しておく**
 - ④ **社会的要請に対応した教育内容はなにかを明らかにする**

が不可欠であるとの結論に達し、本事業がスタートした(**文科省公募事業**)。

事業の目的:
 世界の獣医学教育を俯瞰しつつ我が国の獣医学教育の在るべき姿を検討し、これに即した獣医学教育のコア・カリキュラムを策定するとともに、獣医学教育法のモデルを明示する。

委員会組織

- **総括班** (獣医学教育全般について内容を検討し、また本事業を統括する)
責任者:尾崎博 (東京大学)
委員: 田村豊 (酪農学園大学)、佐藤れえ子 (岩手大学)、吉川泰弘 (東京大学)、西原真杉 (東京大学)、石黒直隆 (岐阜大学)、多川政弘 (日本獣生命科学大学)、佐藤晃一 (山口大学)、片本宏 (宮崎大学)
- **導入教育・基礎獣医学教育分野研究班**
(生理学、解剖学、薬理学などの教育内容を担当する)
責任者:西原真杉 (東京大学)
- **病態獣医学分野研究班**
(微生物学、病理学などの教育内容を担当する)
責任者:片本宏 (宮崎大学)
- **応用獣医学分野研究班**
(公衆衛生学、毒性学、野生動物学などの教育内容を担当する)
責任者:田村豊 (酪農学園大学)
- **臨床獣医学分野研究班**
(内科学、外科学、臨床病理学などの小動物臨床分野を担当する)
責任者:佐藤れえ子 (岩手大学)

3. 「獣医学コアカリ」が目指すもの

- ・ 獣医学コアカリは「日本の獣医学教育とはこうあるべきもの」という観点から各論として定めるものであり、獣医学教育関係者が**自主的・主体的**に定めるもの。
- ・ 獣医師国家試験は技術者(獣医師)としての資格を問うものであり、農水省が定めるもの。獣医学履修者の進路は多様であり、**範囲は獣医師国家試験よりは広くなり、程度はやや平易**となる。
- ・ コアカリキュラムに準拠した**共通テキスト**を作成し、学習の便宜をはかる。
- ・ 獣医学においては、まずは科目別のコアカリキュラムを構築し、順次これを再編して他の目的、**共用試験への利用**を可能とする。

4. 本調査研究委員会が想定する科目とは

文科省獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議「教育内容に関する小委員会委員」で検討された「**必要とされる授業科目**」を基準としています(日本獣医師会で作成された**標準的カリキュラム**をもとに作成)。

1 授業科目	1-5 臨床獣医学	2 実習科目
1-1 導入教育	1 内科学総論	2-1 基礎獣医学
2 獣医学概論	2 皮膚病学	創制学実習
3 獣医倫理	3 神経病学	細胞学実習
1-2 基礎獣医学	4 眼科	生理学実習
1 解剖学	5 産科	生化学実習
2 組織学	6 放射線学	薬理学実習
3 発生学	7 動物行動学	実験動物学実習
4 生理学	8 疫学分野・公衆・中毒学	2-2 病態獣医学
5 生化学	9 臨床栄養学	病理学実習
6 薬理学	10 臨床検査学	微生物学実習
7 動物育種学	11 産業動物臨床学	寄生虫・寄生虫生物学実習
8 動物行動学	12 泌尿器病・生殖器病学	2-3 応用獣医学
9 実験動物学	13 呼吸器病・循環器病学	公衆衛生学実習
1-3 病態獣医学	14 呼吸器病・循環器病学	食品衛生学実習
1 病理学	15 血液学	毒性学実習
2 免疫学	16 臨床病理学	動物衛生学実習
3 微生物学	17 臨床薬理学	理髪衛生学実習
4 動物感染症学	18 外科総論	2-4 臨床獣医学
5 寄生虫・寄生虫生物学	19 臨床検査学	臨床検査学実習
6 寄生病学	20 運動生理学	獣医学実習
7 魚病学	21 科・口腔科学	獣医学実習
1-4 応用獣医学	22 手術学	獣医学実習
1 公衆衛生学総論	23 調理学	獣医学実習
2 食品衛生学		
3 毒性学		
4 動物衛生学		
5 環境衛生学		
6 獣医臨床検査学		
7 野生動物学		
8 獣医倫理		

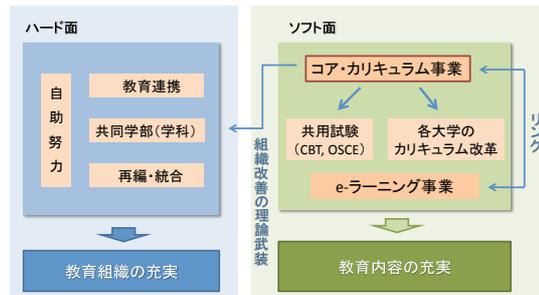
5. 作業の進め方 (作業マニュアル抜粋)

- ① とりあえず、**医学あるいは薬学のコアカリキュラム**をダウンロードし、ご覧になってください。先に述べたとおり、これらの分野では科目横断的となっておりますが、獣医学ではとりあえず**科目横断的に**作業します。科目横断的カリキュラムの作成に關しては、**獣医版共用試験**をどうするかという議論が必要で、次期の目標と考えています。
- ② はじめの作業としては、項目数にとらわれることなく、**広めに項目を設定**してください。科目ごと、分野ごと、さらに全分野での合間の協議によって**次第に整理**されていきます。
- ③ レベルの設定法
 以下のようなレベル設定を行いなから作業する。
 ○ コアとして問題ないもの
 △ コアとして含まれるかどうか疑問であるが、議論の余地が残るもの (例: アドバンス科目が設定された場合にはそのコアとなるもの)
 ▲ この分野ではコアではないが、他分野ではコアとなる可能性があるもの
 ■ その他、討議はされたが採用すべき項目と判断されなかったもの
 いずれにしても、科目毎の協議で一度挙った項目は削除せず、議論があったことを記録にとどめて下さい。
- ④ 区切りのよいところでファイルを事務局宛にお送りください。PDFにして**ホームページ(専用ページ)**の「作業経過」に順次貼り付けていきます。これにより、途中経過を委員会内で共有することが可能となります。

6. 工程表

- 9月(鳥取大:第148回獣医学会)**
- ① 各科目の委員が集まり、独自に進めてきたコアカリ案をつきあわせて協議する。
 - ② 各分野(4分野)の担当者が集まり協議。項目数、重複などの問題点を洗い出す。
 - ③ 教育改革委員会においてコアカリ事業を説明する。この時点で、完成度の高い案を例示し総論的な意見を求める。
- 2010年1月 29日**
- ① 全ての科目で原案を完成(第一次原案とする)。
 - ② その後に調整作業に入る。
- 3月(日大:第149回獣医学会)**
- ① にて**第一次案を教育改革委員会に提示**する。委員会メンバーはこの案を各大学に持ち帰って意見を聴取する。
 - ② この時期から実習に関するWGの作業を開始する。WGは関連する授業科目の担当者が当たり、10月を目途に**第二次案**をまとめる。
- 10月(香大:第150回獣医学会)**
- ① 獣医学会の分科会等でミニシンポジウムなどを実施して理解を深める。
 - ② 教育改革委員会等では実習の第二次案についての意見聴取を行う。各大学に持ち帰り意見聴取を依頼する。
 - ③ 講義科目と実習の調整を行う(第三次案とする)。
- 12月**
最終案のまとめの作業
- 2011年2月**
文科省へ報告書、冊子体の印刷

獣医学コア・カリキュラム：獣医学教育改善運動の中の位置づけ



コアカリで何が変わるのか?

学生および社会に対して獣医学で何を教育するかを明示する(教育の質保証)

1. 自分たちの理念で獣医学教育ができるようになる。
2. 「教育組織は如何にあるべきか」の積算根拠となる。
3. 自己点検・自己評価の基準となる。
4. 共用試験の実施によって臨床教育が充実する。

身近なこと:

1. 教科書が一新される。
2. なにより学生が勉強するようになる。(共用試験とセット)

共通テキスト

ベーシック薬学教科書シリーズ
薬学教育モデル・コアカリキュラム準拠
【化学同人】

薬学シリーズ コアカリ、CBT、OSCE対応万全【東京化学同人】

獣医学共用試験調査委員会

平成21年9月の全国獣医学協議会で設置

- ・ 酪農学園大学: 山下和人 教授
- ・ 岐阜大学: 北川均 教授
- ・ 北里大学: 高井伸二 教授
- ・ 岐阜大学: 杉山誠 教授
- ・ 日本獣医生命科学大学: 新井敏郎 教授
- ・ 麻布大学: 浅井史敏 教授
- ・ 日本大学: 鎌田寛 教授
- ・ 東京大学: 大野耕一 准教授

